

◎注意事項をよくお読み下さい

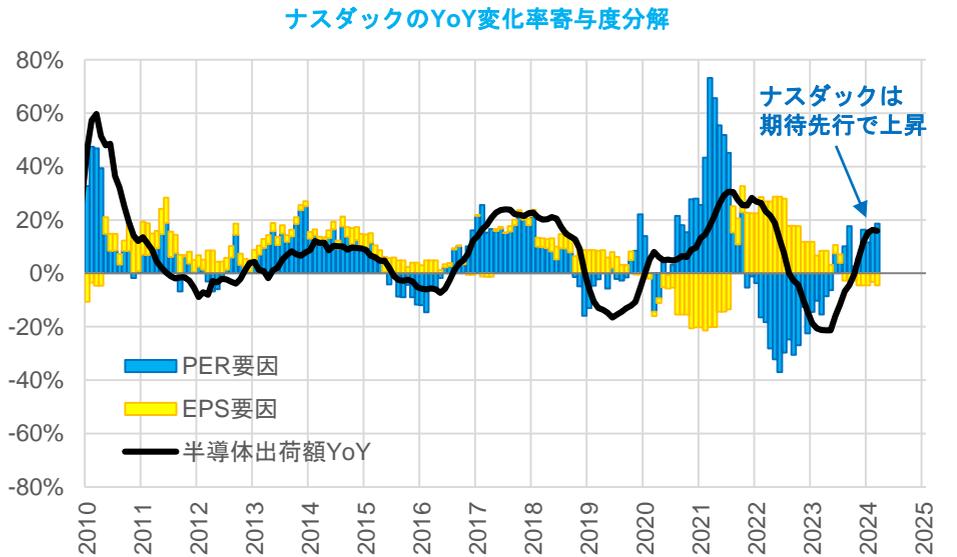
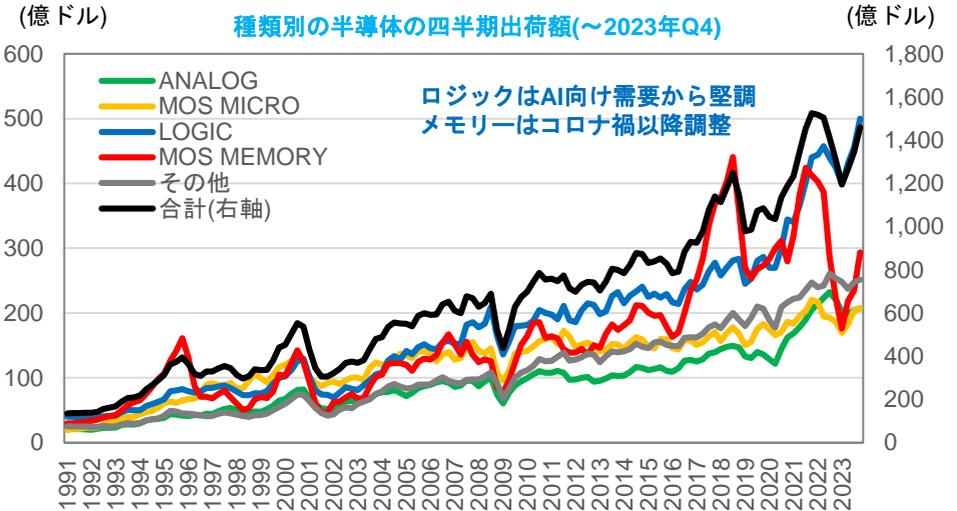
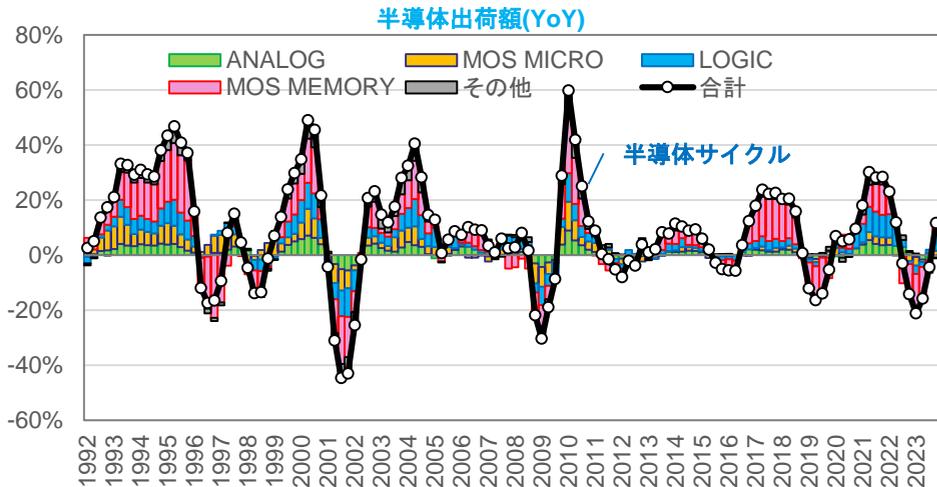
りそな 経済フラッシュ

(日米 Market View : シリコンサイクルから見る米ハイテク株の展望)

2024/4/22
りそなホールディングス 市場企画部
担当: 武居

◎米ハイテク株分析：弱い実績は押し目買いの好機？

- ▶ 世界の半導体出荷額前年比が示すサイクル(シリコンサイクル)は、23年央以降底入れし、回復局面入りした様に見えるが、半導体の種類別の状況は大きく異なる。実際、ロジック半導体は、AIブームによって急回復しているが、その他の半導体の回復は依然として緩慢である。特にメモリー向け半導体はコロナ禍で記録したピークの半分程度の売上高となっている。
- ▶ 金融環境に目を向けると、ナスダックのPERはヒストリカルに見て割高な水準にある。筆者は元々、FRBが利下げを行う過程では、高水準のPERが許容されると考えていたが、開始時期や回数減少への懸念が台頭する中では、PERが縮小する可能性を留意すべきと考える。今後本格化する決算では、先々のガイダンス以上に、実績に市場は敏感に反応する可能性が高い。AI技術への期待先行で上昇してきたナスダックは、依然として緩慢なAI関連以外の半導体市況が認識されるに連れ、調整する可能性があるだろう。
- ▶ 一方で、AI関連以外の半導体売上高は、これから本格的な回復局面へ向かうとみることにもできる。つまり、ナスダックのファンダメンタルズは年央以降改善していく公算が大きい。その場合、FRBの利下げ開始や米大統領選が意識される局面と重なり、バリュエーションが拡張する展開も期待できる。その意味では、実績の弱さを嫌気した下落は、押し目買いの好機と言えるだろう。



(出所) WSTS, Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。